

2025年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(夏期・一般選抜) 問題

専門科目 中国思想中国哲学 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

受験記号番号	
--------	--

成績	
績	

2025年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(夏期・一般選抜) 問題

専門科目 (中国思想中国哲学 専攻分野)

問一 次の文章①②③は、元・脱脱『宋史』道学伝序の一部である。現代日本語に翻訳せよ。

解答は、①②③それぞれの問題文の左側に記せ。 ※問題文には句読点等を書き入れてもよい。

①

道學之名古無是也三代盛時天子以是道為政教
大臣百官有司以是道為職業農庠術序師弟子以
是道為講習四方百姓日用是道而不知是故盈覆
載之間無一民一物不披是道之澤以遂其性於斯
時也道學之名何自而立哉

②

文王周公既没孔子有

德無位既不能使是道之用漸被斯世退而與其徒
定禮樂明憲章刪詩修春秋讚易象討論墳典期使
五三聖人之道昭明於無窮故曰夫子賢於堯舜遠
矣孔子没曾子獨得其傳傳之子思以及孟子孟子
没而無傳

③

兩漢而下儒者之論大道察焉而弗精語
焉而弗詳異端邪說起而乘之幾至大壞千有餘載
至宋中葉周敦頤出於舂陵乃得聖賢不傳之學作
太極圖說通書推明陰陽五行之理命於天而性於
人者瞭若指掌張載作西銘又極言理一分殊之旨
然後道之大原出於天者灼然而無疑焉

問二 次の文章は、小川環樹「中国散文の諸相」（『小川環樹著作集』第一巻）の一節である。

これを讀み、全文を現代中國語に訳せ。

以下に私が古文と称するのは、上に述べた韓・柳の理念に従って作られた散文をいうこととする。その古文は、説理の文（つまり議論文）と叙事の文（いわゆる史伝の文もこれに含む）に最も適する。説理の文は戦国の諸子百家のうちに散文で書かれた。六朝時代からは駢文もしくは駢文にはなほ近い文体を用いて、哲学が説かれたことがある（仏教の經典や「論」「律」の翻訳はほとんど四字句でできていて、純粹な駢文とは言えないが、よく似たりズムをもつ）。文学の理論を述べた梁の劉勰（四六六？—五二〇？）の『文心雕龍』や、歴史叙述を論じた唐の劉知幾（六六二—七二二）の『史通』のごとき、始めから終りまで一貫して駢文で書かれた本もあった。しかし宋代以後は、その種の著述に駢文を用いることはなくなった。それは文章の美の感覚が変化し、素朴へ帰ろうとする傾向が強くなったためである。

問三 左記の六項目の中から三つの項目を選び、それぞれについて知るところを記せ。

中国語による解答も可。

①漢書藝文志

②王陽

③法苑珠林

④李贄

⑤戴震

⑥譚嗣同

